

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

宮崎小学校

1 全国学力・学習状況調査について



- 令和7年4月17日(木)、6年生を対象に調査が行われました。
- この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、
 - ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
 - ・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
 - ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的に行われているものです。
- 教科に関する調査(国語、算数、理科)は、学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問うものとなっています。
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査があり、オンライン方式で実施しました。
- 調査問題や全国の状況は、国立教育政策研究所HPで見ることができます。
- 調査結果は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることをご了解ください。

○本校では、調査問題を全教員で解いたり採点したりして、児童の学力や学習状況を把握しています。

○結果を分析し、教員の研修、授業や生活指導等の改善に役立てながら、継続的な検証改善のサイクルの確立につなげています。

○本校の教育活動の指針としているスクールプランをもとに、現状と課題をとらえるようにしています。今後の実践を通して改善していけるよう、教職員が一丸となって取り組みます。



2 教科に関する調査結果(国語) 書くこと

結果のポイント

全体的にたいへんよくできており、学習指導要領で育成をめざす資質・能力が、よく身につけていると考えられます。

やや課題が見られたのは、「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」と、「事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとにおさえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること」でした。

大問2-1 具体的な設問例

山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する。

- 二 山田さんは、理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。
- 1 言葉に関係のない図を示すことで、別のものについての興味を高めるため。
 - 2 二つの図を並べて示すことで、もようの移り変わりを明確にするため。
 - 3 言葉と図を合わせて示すことで、具体的に内容を理解できるようにするため。
 - 4 言葉と図を比べて示すことで、疑問点を明確にするため。

【ちらし】

手ぬぐい

手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。
そのよさとは、どのようなものでしょう。

よさ1 もよう

さまざまなもようがあり、好きなもようを選ぶことができます。おくり物としてもぴったりです。

季節を通じるもよう

手ぬぐいには、植物や風景をもとにしたもようがあります。季節に合わせて手ぬぐいを選ぶことができます。

しゅみやすきなものに合わせたもよう

スポーツや音楽などに関係するもようの手ぬぐいもあります。相手のアこのみに合わせて、もようを選び、おくることができます。

よさ2 使い方

手などをふくだけではなく、身に着けたり、物を包んだりすることもできます。

身に着ける使い方

あつい日に、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。また、外で作業をするときに頭にかぶると、あせをきゅうしゅうし、両手が空くので仕事がしやすくなります。

物を包む使い方

手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。

このように、手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。
みなさんもぜひ使ってみてください。

2 山田さんの学級では、伝統工芸品について詳しい文章を、次の「ちらし」に書いています。これをよく読んで、あとの問いに答えましよう。

学習指導にあたって

観察や実験、調査の結果などの事実を書いて伝える場合には、図表やグラフを用いると、自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものとなります。

学習指導に当たっては、図表やグラフを用いた文章と用いていない文章を比較するなどして、図表やグラフの効果を理解できるようにします。その上で、伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフを用いるとよいかを児童が考えられるようにします。自分の伝えたいことを明確にしながら「自分の伝えたいことが伝わる図表やグラフになっているか」、「図表やグラフを用いることで書く必要がなくなった文章はないか」、「文章で説明を加えた方が分かりやすい部分はないか」など、文章と図表やグラフとの関係を検討するようにします。

2 教科に関する調査結果(国語) 読むこと

具体的な設問例
大問3二(2)

【資料3】を読み、「木村さんのメモ」の空欄イに「当てはまる内容として適切なものを選択する。」

【木村さんのメモ】

言葉の変化について分かったこと

「あたらしい」は新しい形

(奈良時代) あたらし ↓ (平安時代) (今)

時代とともに言葉の形が変わる。

とてもできる?できない?

(室町時代) (大正時代より前) (今)

どうせ ↓ どうしても、とうてい ↓ 非常に

イ

【資料2】

「あたらしい」は新しい形

「新しい」ということを「新しい」と書く人が多くなりました。こう言う「新しい」は、日本語が「新しい」でも、心配しないでください。にたようなことは、昔からよくあることです。「新しい」は「新しい」という意味で、私たちは「新しい」と言います。でも、大昔の奈良時代には、「あたらしい」と言っていました。今でも、「新しく」という意味で「あたらしい」と言うでしょう。「あたらしい」は、大昔から使われていました。ところが、次の平安時代には「あたらしい」が「あたらしい」になりました。「た」と「ら」の順番が入れかわっていますね。つまり、「あたらしい」に比べれば、「あたらしい」は新しい形です。それが変化して、今では「あたらしい」になりました。

(飯田浩明「日本語をつかまえる」による)

【資料3】

とてもできる?できない?

今、あなたは「勉強がとてもできる」という言い方を覚えたとは思わないでしょう。「とても」は「非常に」の意味を表します。ところが、1000年ほど前の大正時代、作家の芥川龍之介は、「とても楽しい」という言い方は新しいと書いています。それより前の時代には、「とてもかなわない」「とてもまどまらない」のように、「とても」の形で書かれたのです。つまり、大正時代より前は、「勉強がとてもできる」とは言わず、「ほくには、そんなことはとてもできない」と言っていたんですね。この場合の「とても」は、「どうしても」「とうてい」という意味を表します。

「じゃあ、これからは「とても」ではない」と言おう、「とても」は「非常に」のようにしよう」と思うかもしれません。でも、その必要はありません。もっと古い時代、室町時代には、「とても」は「どうせ」の意味で使われていました。たとえば、「とても散らかる」と言えば、「どうせ散らかる」という意味です。

ことは昔の意味だけで使おうと思つたら、現代では事と違ふてしまいます。「昔はどうだったか」を知ることが大事ですが、「現代ではどう使われているか」を理解することも大事です。現代人は、これは現代の意味で使うのが一番いいのです。

(飯田浩明「日本語をつかまえる」による)

- (1) 【木村さんのメモ】の「ア」の中に入る適切な言葉を【資料2】の中から書きめきましょう。
- (2) 【木村さんのメモ】の「イ」に当てはまる内容として最も適切なものを、【資料3】を読み、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 時代とともに言葉の意味が変わる。
 - 2 時代とともにものの使い方が変わる。
 - 3 世代によってもものの呼び方がちがう。
 - 4 世代によって言葉の使い方は変わらない。

学習指導にあたって

要旨とは、書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事柄や、書き手の考えの中心となる事柄などのことです。要旨を把握するためには、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、文章全体の構成を捉えることが重要です。

この問題では、【資料3】から、「とても」という言葉が、室町時代は「どうせ」、大正時代より前は「どうしても、とうてい」、今は「非常に」というように、言葉の意味や使われ方が変わってきていることを読み取り、「時代とともに言葉の意味が変わる」という要旨を捉えることが求められています。

学習指導に当たっては、【木村さんのメモ】のように、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているかを書き出し、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめるなどして、内容の中心となる事柄などを捉えることができるようにします。その際、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉えることができるようにします。

また、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することの必要性を感じられるように、言語活動の目的や価値を明確にすることを大切にします。例えば、対話の中で、友達と考えを伝え合ったり、自分の経験や知識を結び付けて考えたりしながら、文章を読む活動の目的を明確にできるようにします。

2 教科に関する調査結果(算数) 数と計算

結果のポイント

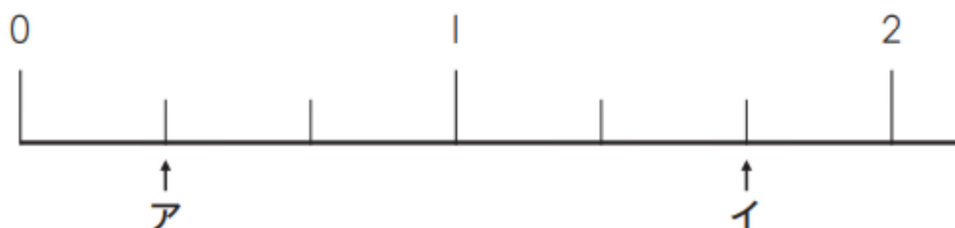
全体的にたいへんよくできており、学習指導要領で育成をめざす資質・能力が、よく身につけていると考えられます。

やや課題が見られたのは、「数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数のいくつ分として捉えること」と、『10%増量』の意味を解釈し、『増量後の量』が『増量前の量』の何倍になっているかを表すこと」でした。

具体的な設問例 大問3(3)

数直線上に示された数を分数で書く。

(3) 次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう。



学習指導にあたって

アを $\frac{1}{6}$ (6分の1)としたり、イを $\frac{5}{6}$ (6分の5)としたりする誤答がありました。

数直線上の目盛りが表す数を分数で表すことで、分数の意味や表し方について理解を深めることができるようにすることが必要です。

学習指導に当たっては、例えば、本設問のように、数直線上の目盛りが表す数を分数で表す活動を取り入れます。その際、0から1までが何等分されているのかに着目して、単位分数を捉えることができるようにします。その上で、他の目盛りが表す分数を、「単位分数の幾つ分」として考えることを大切にします。

また、この設問では0から2までが6等分されているため、単位分数を $\frac{1}{6}$ (6分の1)と捉え、 $\frac{5}{3}$ (3分の5)を $\frac{5}{6}$ (6分の5)と誤って回答したことが考えられます。この場合には、単位分数は0から1までが何等分されているのかで決まることを確認して、一目盛りが $\frac{1}{3}$ (3分の1) になっていることから、 $\frac{1}{3}$ (3分の1)の5個分で $\frac{5}{3}$ (3分の5)であることを理解できるようにします。

2 教科に関する調査結果(算数) 変化と関係

具体的な設問例 大問4(4)

10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ。

(4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。
広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。
増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800 mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。
上の○にあてはまる数を、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、
その番号を書きましょう。

- 1 0.1
- 2 1.1
- 3 10
- 4 110

学習指導にあたって

日常生活においてある数量を調べようとするとき、それと関係のある数量を見だし、それらの数量の間にある関係を把握して、問題解決に活用することが重要です。また、「10%増量」「1割引」など割合の表現が用いられている場面において、それらの意味を解釈することができるようにすることも大切です。

この設問では、選択肢1の0.1倍とした誤答が多くありました。「10%増量」について、百分率で表された10%を0.1と捉えることはできていますが、「増量後の量」が「増量前の量」の110%になることを捉えることはできていないと考えられます。

指導に当たっては、「10%増量」と書かれている増量後のハンドソープの量が、増量前のハンドソープの量の何倍になっているのかを考え、言葉や図、式を関連付けながら、数量の関係を考察し説明できるようにします。その際、増量前の量を基準量とし、基準量を100%として10%や110%に当たる比較量を表したり、基準量を1として0.1や1.1に当たる比較量を表したりしながら、「10%増量」について、「増えた分」と「増量後の量」の違いを明らかにして、図と式や言葉を用いて説明し、数量の関係を捉えることができるようにしていきます。

2 教科に関する調査結果(理科) 「エネルギー」

結果のポイント

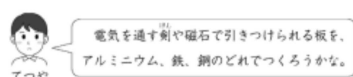
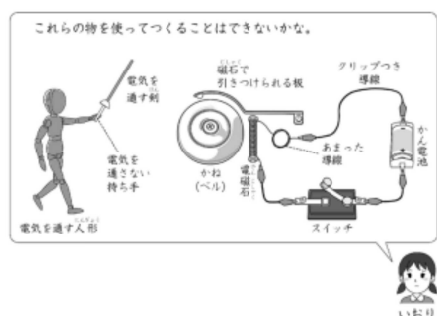
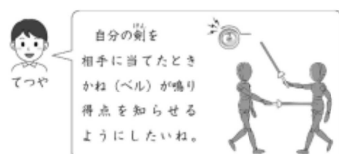
全体的にたいへんよくできており、学習指導要領で育成をめざす資質・能力が、よく身につけていると考えられます。

やや課題が見られたのは、「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられるものがあることの知識」と、「レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点をもとに、新たな課題を見だし、表現すること」でした。

具体的な設問例 大問2(1)

アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ。

てつやさんといおりさんは、これまでに学習した電気の性質を利用して、フェンシングのおもちゃをつくることができないか、話しています。



(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の 1 から 4 までのの中からそれぞれ 1 つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

- 1 電気を通し、磁石に引きつけられる。
- 2 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 3 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

学習指導にあたって

この問題では、電気の性質を利用して、相手に剣を先に当てたかを音や光で知らせているフェンシング競技に興味をもち、これまでに学習した電気の性質を利用してフェンシングのおもちゃをつくることについて話し合いをしています。その際、自分の剣を相手に当てたときにベルが鳴るようにする方法や工夫について科学的に探究し、問題を解決していく学習場面が設定されています。

ここでは、身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることを理解していることが必要です。そのために、学習した知識を身の回りで見られる事物・現象と関係付けたり、習得した知識を整理したりして、物質の性質に関する理解を深めることが大切です。

指導に当たっては、例えば、第3学年「磁石の性質」において、磁石に引き付けられる物と引き付けられない物を調べる際に、「電気の通り道」での実験の結果を振り返りながら、物質の性質に着目して整理するようにします。「磁石の性質」と「電気の通り道」では、鉄、アルミニウム、ガラス、木など、同じ対象物を用いて学習することが多いので、それぞれの内容で習得した知識を物ごとに整理し、まとめるなどして、物質の性質について理解を深めるようにしていきます。

2 教科に関する調査結果(理科) 「生命」

具体的な設問例 大問3(4)

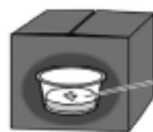
レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきをもとに、見いだした問題について書く。

たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。



レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、1つも発芽しなかったよ。

たかひろさんが行った実験



しめさせた
だし綿

《条件》

- ・水あり
- ・空気あり (種子が空気にふれている)
- ・温度 (室温)
- ・日光なし (箱をかぶせている)
- ・肥料なし

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の《条件》の中から1つ選んで調べてみたい。



てるみ

(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

学習指導にあたって

レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきをもとに、見いだした問題について表現できるかどうかを問うものです。

「日光をありにする」のように解答した児童が多く、「日光」や「肥料」という具体的な条件に着目できているものの、レタスの種子の発芽に関する問題として「レタスの種子が発芽するために、日光は必要なのだろうか」というように、適切に表現することができていないと考えられます。

自然の事物・現象に働きかけて得た事実にもとづいて、問題を見いだすことができるようにするために、事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにすることが重要です。

指導に当たっては、観察、実験の結果を比較して、差異点や共通点をもとに、具体的な条件に着目した問題を見いだす場面を設定し、実験や観察を通して追究する過程を大切にします。

3 質問紙調査結果

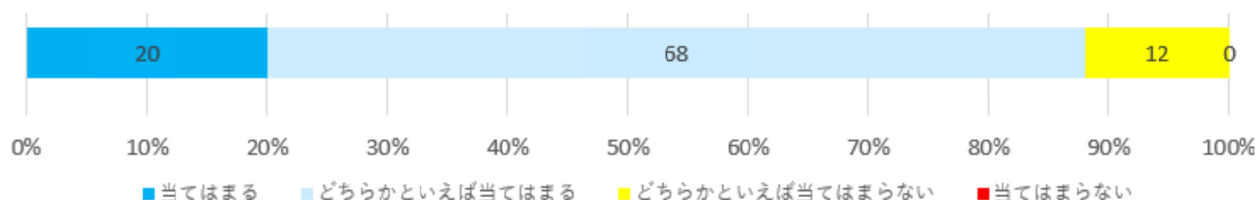
結果のポイント

全77問の多岐にわたる質問がありますが、ここでは、スクールプランにおいて重点目標として設定し、取り組んでいることと関連が深い質問について、回答結果をお知らせします。

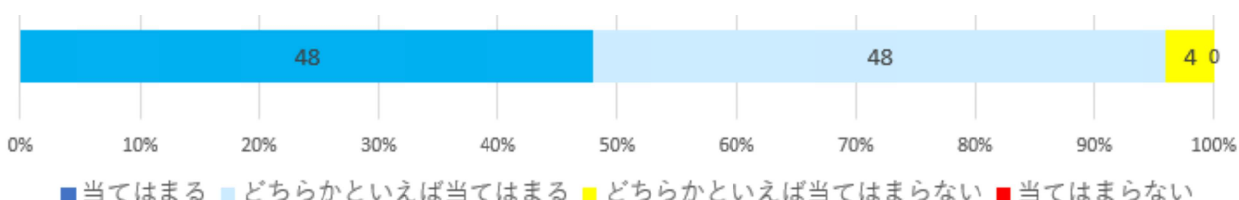
全体としては良好な結果が出ていますが、実際にできていることにも、「当てはまる」より「どちらかといえば当てはまる」と答える傾向があるようです。回答結果は、学習や生徒指導、生活や学習環境の改善に役立てます。

(1) 主体的な学びづくりの取組と関連する質問

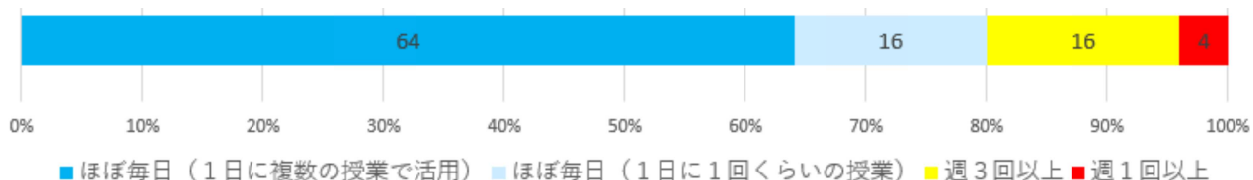
質問番号 (35) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。



質問番号 (40) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



質問番号 (28) 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度活用しましたか。



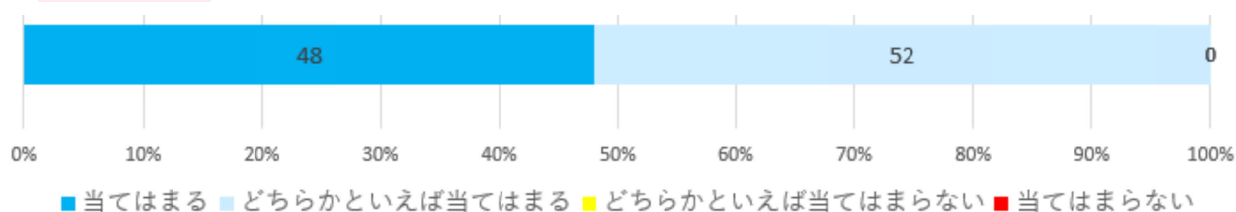
質問番号(27) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。



(2) 創造的な学びづくりの取組と関連する質問

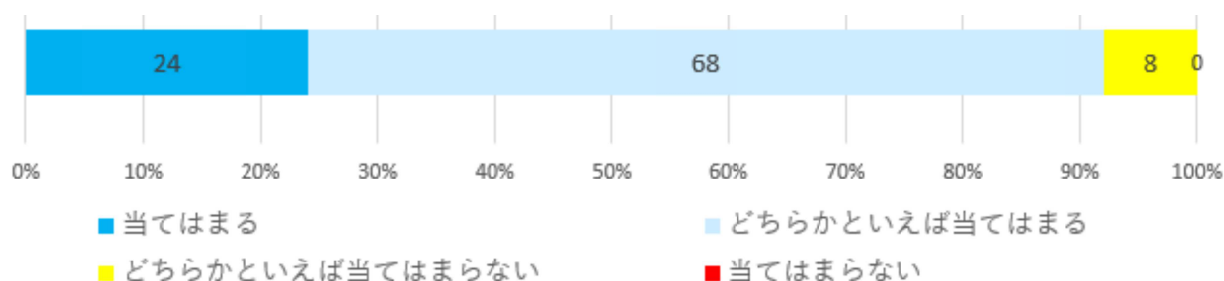
質問番号
(39)

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。



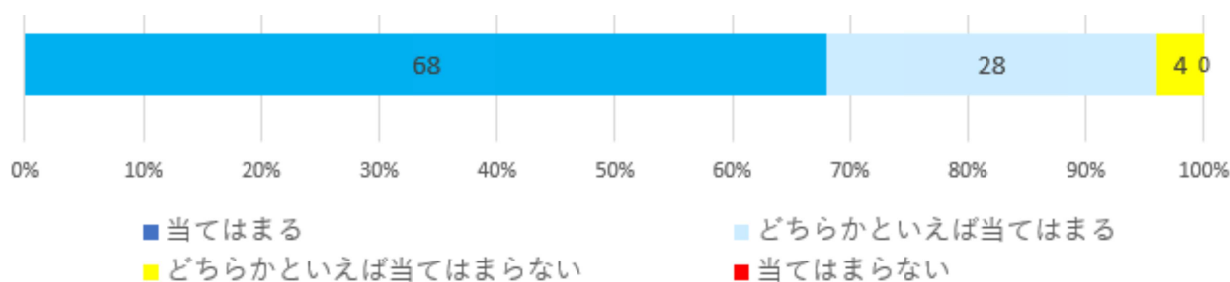
質問番号
(16)

分からないことやよく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



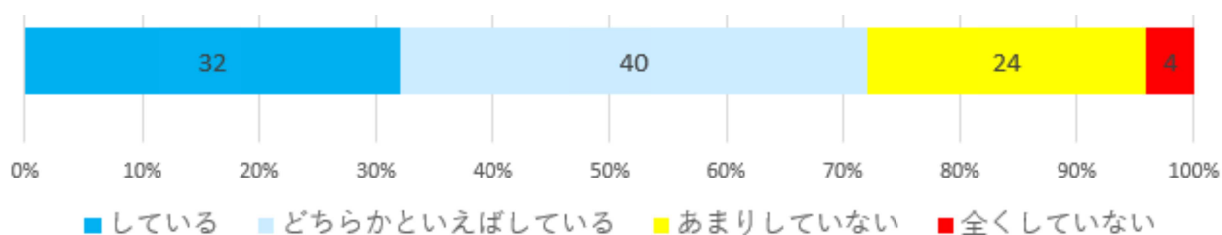
質問番号
(8)

人が困っているときは、進んで助けていますか。



質問番号
(71)

健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、ふだんの生活に役立てていますか。



保護者・地域のみなさまへ

調査結果から、子どもたちは各教科で育成をめざす資質・能力をしっかりと身につけ、学力が向上していることが分かりました。しかし、改善が必要な課題もあります。

学習指導要領が示す「生きる力」は、各教科等の特性をふまえ、主体的・対話的に深く学ぶことによって、知識や技能だけでなく、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等をバランスよく育てることをめざすものです。そのために、よりよい授業をめざして全教職員で研究をすすめ、いっそうの授業改善に取り組めます。

また、子どもたちの成長を支える環境づくりのため、健やかな心と体づくりや地域社会とのかかわりなどについては、ご家庭や地域のみなさまと課題を共有し、改善に向けて取り組みたいと思います。

「生きる力」を育むには、学校での学びを日常生活に活用したり、ご家庭や地域での経験を学校生活に生かしたりすることも大切です。お子さんがどんなことを学んでいるかについて、ぜひ話題にしてみてください。また、ご家庭や地域での過ごし方についても、お子さんと一緒に考えてみてください。

